

出前講座報告書

実施日時	2020 年 8 月 20 日 13:30～15:00	主催者名	津軽保健生協 社会保障平和委員会
講師名	高松利昌	会場名	津軽保健生協会館
テーマ	津軽圏域の二次救急の現状と地域医療構想の問題点		
参加人数	15 人	報告者	鈴木健仁、高松利昌

《質問された内容など》

【講座内容】

- 津軽地域の救急医療体制の状況。医師、看護師、薬剤師不足。
- 津軽地域の二次救急医療は統合病院ができて、24 時間体制は困難。(市医師会会長によれば5年～10年はかかると予想されている)
- 新中核病院整備及び運営に関わる基本協定について、地域との連携では、後方支援病院、介護・福祉施設の状況が反映されておらず、弘前市急患診療所の移設については、計画は既に頓挫、設置場所は未定。開業医高齢化等の問題点。
- 病床の大幅削減。
- 病院統合で特定の病院に救急車が集中。周辺自治体が救急を受けなくなったらどうするか。
- 津軽地域の医師が多数区域となっているのは、大学病院の医師(教育者、研究者)を含んでの数。
- 市立病院が抱える不良債権をどうするか。財政負担。
- 住民への情報公開はどうするか。

【質問内容、感想等】

- 健生の病床を、新型コロナの病床に充てていることから、通常の入院が抑制されていることに疑問に思っていた。

《気づいたことや今後の教訓など》

